

SCIENTIFIC MEETINGS & SEMINARS

第32回東京大学医科学研究所創立記念シンポジウム 「トランスレーショナル・リサーチ」

本研究所では伝染病研究所から医科学研究所への改組を記念して創立記念シンポジウムを毎年開催している。

本年は「トランスレーショナル・リサーチ」というテーマで講演をお願いした。

日 時：平成17年6月1日(水) 13:00~17:00

会 場：医科学研究所 講 堂

- | | |
|---|---------------------------------|
| 澁谷 正史 (医科研：腫瘍抑制分野) | 「VEGFによる血管新生の分子機構とその応用」 |
| 田原 秀晃 (医科研：臓器細胞工学分野) | 「がんペプチド・ワクチン療法のトランスレーショナル・リサーチ」 |
| 中村 祐輔 (医科研：ゲノムシーケンス解析分野) | 「ゲノム研究からゲノム医療へ」 |
| 上田 龍三 (名古屋市立大学附属病院長
名古屋市立大学大学院医学研究科：臨床分子内科学) | 「がん診療における抗体療法」 |
| 鶴尾 隆 (分子細胞生物学研究所：細胞増殖研究分野) | 「がん分子標的治療研究の展開」 |

学友会セミナー2005

- 1月18日 演者：Professor Toshio Narahashi
Department of Molecular Pharmacology and Biological Chemistry, Northwestern University, The Feinberg School of Medicine, Chicago, IL, U.S.A.
演題：Unique Mechanism of Action of Alzheimer's Drugs on Brain Nicotinic Acetylcholine Receptors and NMDA receptors
- 1月21日 演者：出澤 真理 博士
京都大学大学院医学研究科・機能微細形態学
演題：骨髄間質細胞からの神経並びに骨格筋への選択的誘導法開発：変性疾患における自己再生システム系の確立を目指して
- 1月25日 演者：日下部 岳広 博士
兵庫県立大学・大学院生命理学研究科
演題：ホヤ遺伝子発現調節領域のin silico-in vivo解析：ゲノムワイドなシス調節システムの解明を目指して
- 1月4日 演者：Professor Helen. L. Lin
Department of Physiology, University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas
演題：Phosphoinositide Regulation of Calcium Signaling and Membrane Trafficking
- 2月16日 演者：Prof. Peter D. Burrows, Ph.D.
Microbiology Graduate Program Director
University of Alabama at Birmingham
演題：Mechanisms to diversify the human antibody repertoire
- 2月21日 演者：Dr. Mikhail P. Moshkin
Institute of Systematics and Ecology of Animals, Siberian Branch of the Russian Academy of Sciences, Novosibirsk, Russia
演題：IMMUNO-BEHAVIORAL CO-MODULATIONS
- 2月21日 演者：今本 尚子 博士
理化学研究所中央研究所
演題：核一細胞質間分子輸送：メカニズムと制御
- 2月24日 演者：入江 崇 博士
Department of Pathobiology, School of Veterinary Medicine, University of Pennsylvania
演題：組換えVSVを用いた、VSV, HIV-1及びEbola virus由来Lドメインの機能解析
- 3月10日 演者：Professor Janusz M. Bujnicki
ワルシャワ国際分子細胞生物学研究所
演題：制限酵素の起源と進化
On the origin and evolution of restriction enzymes
- 3月24日 演者：柴田 進和 博士
金沢大学医学系研究科再生分子医学教室
演題：X染色体不活性化におけるアンチセンス遺伝子の機能と作用
- 4月1日 演者：黒田 真也 教授
東京大学大学院情報理工学系研究科，生物情報科学学部教育特別プログラム特

- 任助教授, さきがけ「強調と制御」
- 4月20日 演題: ERK経路のシステム生物学
 演者: Yongwon Choi, Ph.D.
 Professor, University of Pennsylvania, School of Medicine
- 4月11日 演題: Signaling network in the osteoimmune system
 演者: Dr. Alexander Rudensky
 Professor, University of Washington, Seattle
- 5月6日 演題: Dominant Tolerance
 演者: Dr. Marciano Reis
 Chief, Dept. of Clinical Pathology, Sunnybrook & Women's College Health Sciences Centre, Toronto
 Associate Professor, Dept. of Laboratory Medicine and Pathobiology, Faculty of Medicine, University of Toronto
- 5月11日 演題: A Medical Events Reporting System in Transfusion Medicine: an institutional experience
 演者: Dr. Marc Symons
 Associate Professor, Department of Anatomy & Structural Biology Albert Einstein College of Medicine
- 5月12日 演題: Role of Rac proteins in tumor cell invasion
 演者: Dr. Casey T. Weaver
 Professor of Pathology and Microbiology, University of Alabama at Birmingham
- 5月14日 演題: "A new lineage of effector CD4 T cells?"
 演者: Dr. Michel Puceat
 Stem cell research and cardiac differentiation laboratory, French National Institute of Health and Medical Research.
- 5月18日 演題: Ca²⁺による心筋細胞分化・ペースメーカー機能の発現
 演者: Dr. Roberto Malinow
 Cold Spring harbor Laboratory
- 5月25日 演題: 神経可塑性を制御するレセプターと膜のトラフィックキング
 演者: 横山 茂之 プロジェクトディレクター
 理化学研究所, 横浜研究所, ゲノム科学総合研究センター
 タンパク質構造・機能研究グループ
- 6月7日 演題: タンパク質の網羅的構造・機能解析
 —理研プロテオミクス研究推進本部(RSGI)の活動—
 演者: 松本 満 教授
 徳島大学分子酵素学研究センター・情報細胞学部門
- 6月27日 演題: 自己免疫疾患の病態に関わる胸腺内転写調節因子の働き
 演者: 小野 功貴 教授
 神戸大学バイオシグナル研究センター
- 7月4日 演題: 情報伝達分子アンカリング蛋白質による中心体・ゴルジ体の機能制御
 演者: Martin M. Matzuk, M.D., Ph.D.
 Departments of Pathology, Molecular and Cellular Biology, and Molecular and Human Genetics, and Developmental Biology Program, Baylor College of Medicine, Houston, TX USA
- 7月4日 演題: TGF-beta Superfamily Signaling Pathways Throughout Development
 演者: Peter Horn, M.D., Ph.D.
 ハノーバー医科大学輸血部

- 7月5日 演題：“Progress in Large Animal Models for Hematopoietic Stem Cell Gene Transfer”
 演者：内匠 透
 大阪バイオサイエンス研究所・研究室長
- 7月7日 演題：ニューロン局所翻訳のこころ
 演者：Ruslan Medzhitov
 Howard Hughes Medical Institute, Section of Immunobiology, Yale University
 School of Medicine New Haven, Connecticut 06520, USA
- 7月8日 演題：Toll pathway of host defense
 演者：竹谷 英之 先生
 独立行政法人国立病院機構 福井病院 リハビリテーション科
- 7月12日 演題：血友病性関節症に対する整形外科治療の日本の現状
 演者：Javier Martinez-Picado Ph.D.
 Retrovirology Laboratory Hospital “Germans Trias i Pujol” Universitat Autònoma de
 Barcelona
- 7月13日 演題：HIV evolution: CTL escape mutation and reversion after transmission
 演者：Dr. Anne O’Garra
 The National Institute for Medical Research
- 8月8日 演題：“Regulation and Function of IL-10-Producing Cells”
 演者：Dr. Kotaro Fujihashi
 Professor of Pathology and Microbiology, University of Alabama at Birmingham
- 9月7日 演題：“OVA-Protein Sigma 1 M Cell Targeting Enhances Oral Tolerance With Loss Of
 OVA-Specific CD4⁺ T Cells”
 演者：井垣 達吏 博士
 エール大学医学部・ハワードヒューズ医学研究所
- 9月20日 演題：「癌の浸潤・転移機構への遺伝学的アプローチ」
 演者：谷原 秀信 教授
 隈元大学・大学院薬学研究部・視機能病態学分野
- 10月14日 演題：「網膜再生医療に関連した諸問題」
 演者：Joseph C. Glorioso, Ph.D.
 Department of Molecular Genetics and Biochemistry, University of Pittsburgh
 School of Medicine
- 10月17日 演題：Treatment of Chronic Pain Using HSV Gene Vectors
 演者：三浦 智行 助教授
 京都大学ウイルス研究所
- 10月21日 演題：サルに学ぶレトロウイルス感染症
 ～病原ウイルスの起源・進化と感染病態モデル～
 演者：Dr. Jiri Mestecky
 Professor of Microbiology and Medicine, University of Alabama at Birmingham
- 11月2日 演題：“Mucosal Immunology of HIV Infections”
 演者：Dr. Lothar Hennighausen
 National Institutes of Health/NIDDK
- 11月10日 演題：Diversity of cytokine-controlled information networks: lessons from cell-specific
 Stat5 gene knock-out mice
 演者：Jon Frampton 博士
 Institute for Biomedical Research, Birmingham University Medical School
- 演題：Defining the complex involvement of the transcription factor c-Myb in the regula-
 tion of haemopoietic stem cells and progenitors using conditional gene deletion

- 11月14日 演 者：Manuel Perucho 博士
The Burnham Institute, La Jolla Cancer Research Center
演 題：The relationships between epigenetic and genetic alterations in gastrointestinal cancer.
- 11月15日 演 者：Francesco Zorzato 博士
Associate Professor
Dipartimento di Medecina Sperimentale e Diagnostica
Sezione di Patologia Generale Universite di Ferrara
演 題：細胞内のカルシウムダイナミクスを制御する機能分子
- 12月15日 演 者：Dr. Thomas S. Becker
Group Leader, Development of Fish Visual System
Sars Centre for Marine Molecular Biology Bergen
演 題：Enhancer detection in zebrafish: Search for developmentally important genes and regulatory sequences
- 12月19日 演 者：平川 聡史 博士
愛媛大学医学部皮膚科学教室
演 題：皮膚—血管・リンパ管から疾患を捉える，この魅力的臓器
- 1月13日 演 者：早川 芳弘 先生
Cancer Immunology Program Peter MacCallum Cancer Centre
演 題：NK細胞の腫瘍免疫監視機構における役割
- 2月1日 演 者：武藤 香織
信州大学医学部保健学科社会学研究室
演 題：ヒトを対象とした先端医科学研究をめぐる社会的諸問題の検討

EDUCATION

大学院セミナー

医科学研究所では、毎年テーマを決めて大学院生を対象としたセミナーを開いている。各々の年の決定されたテーマに関していろいろな視点から最先端の研究を展開しておられる方々に講師をお願いし、現在どのような研究が進められていて、どこまで明らかにされているかが幅広く理解できるように計画がたてられている。2005年には、「発生と分化」というテーマの下で次のようなセミナーが行われた。

発 生 と 分 化

	月 日	講 師 名		演 題
1.	4月18日	御子柴克彦	東京大学医科学研究所・教授	脳神経系の発生・分化機構の解明
2.	4月25日	澁谷 正史	東京大学医科学研究所・教授	血管新生の分子機構
3.	5月9日	浅島 誠	東京大学大学院総合文化研究科・教授	脊椎動物の未分化細胞からの臓器形成
4.	5月16日	松崎 文雄	御理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター・グループディレクター	非対称分裂：細胞の多様性を生むしくみ
5.	5月23日	平良 眞規	東京大学大学院理学系研究科・助教授	核内膜タンパク質XMAN1の神経化におけるBMPシグナル制御作用
6.	6月6日	河野 友宏	東京農業大学応用生物科学部・教授	生殖系列細胞におけるゲノムインプリンティングによる個体発生支配
7.	6月13日	濱田 博司	大阪大学大学院生命機能研究科・教授	体の非対称性が生じる機構
8.	6月20日	瀧原 義宏	広島大学原爆放射線医科学研究所・教授	発生再生制御におけるポリコム遺伝子群の役割
9.	6月27日	笹井 芳樹	御理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター・グループディレクター	脳発生のin vitro再構成
10.	7月4日	栗原 裕基	東京大学大学院医学系研究科・教授	鰓弓・心大血管の発生
11.	7月11日	高橋 淑子	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科・教授	器官形成における普遍原理
12.	9月5日	渡邊すみ子	東京大学医科学研究所・教授	網膜の発生機構の解明と細胞系譜の決定をめざして
13.	9月12日	政井 一郎	御理化学研究所・独立主幹研究員	ゼブラフィッシュ網膜における神経細胞分化のメカニズム
14.	9月26日	林 茂生	御理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター・グループディレクター	管状上皮ネットワーク形成の細胞生物学
15.	10月3日	須田 年生	慶應義塾大学医学部・教授	造血幹細胞の未分化性維持機構

全学自由研究ゼミナール

医科学研究所では、前期課程の学生を対象に、「分子医科学入門」として毎年夏学期(第1・3学期)全学自由研究ゼミナールを開いている。テーマは本所の教員が各自の関心に応じて主題を設定することにより、研究分野中心の問題設定となっており、例年オムニバス形式により医学最先端の研究分野について専門基礎的な授業を開講している。

教員および題目

	月 日	講 師 名	題 目
1.	5月7日	三宅 健介	自然免疫における病原体認識機構
2.	5月7日	小柳津直樹	In situ immunology：腫瘍免疫の作用点
3.	5月14日	北村 俊雄	造血幹細胞研究の歴史
4.	5月14日	森本 幾夫	免疫の仕組み—人はいかにして外来侵入物から身を守るか—
5.	5月21日	甲斐知恵子	エマージングウイルス感染症
6.	5月21日	伊庭 英夫	現代生物学とレトロウイルス
7.	6月4日	山下 直秀	先端医療と生命倫理
8.	6月4日	古川 洋一	ゲノム解析とその臨床応用
9.	6月11日	井上 貴文	神経細胞内局所に限局した情報処理—カルシウムイオンに着目して—
10.	6月11日	清水 哲男	システム医科学の過去、現在、そして未来
11.	6月18日	宮野 悟	システムバイオロジーにおける計算戦略
12.	6月18日	北村 義浩	レトロウイルス概論
13.	6月25日	岩倉洋一郎	ヒト疾患モデルと医科学研究
14.	6月25日	服部 正策	南西諸島のハブ毒に見られる化学進化と固有種の進化

ANNUAL REPORT 2005

March 25, 2006

Published by
Tadashi Yamamoto, Ph.D.
Dean, The Institute of Medical Science
The University of Tokyo
4-6-1, Shirokanedai, Minato-ku, Tokyo 108-8639
TEL: 81-3-3443-8111

発行日 平成18年3月25日

発行者 東京大学医学科研究所
所長 山本 雅
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
電話 (03) 3443-8111 (代表)

Printed by Shobi Printing Co., Ltd. Tokyo, Japan

印刷 勝美印刷株式会社